

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○12番 赤嶺奈津江さん 6月定例会、一般質問最後になりますが、大項目4つ取り上げていますので、前向きな答弁と真摯な答弁をよろしくお願ひしたいと思います。休憩をお願いします。

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時01分）

再開（午後1時01分）

○議長 知念富信君 再開します。12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん それでは一括で質問し、答弁をいただいた後、再質問から一問一答でいきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

大問い1. 夏休み短縮について。昨年より、規則改正で夏休み短縮が可能となったが、ことしの状況はどうなっているか。（2）授業日数の確保ができ、行事の調整や台風で休みが多くなったとしても対応しやすくなると聞く。町として、夏休み短縮についてどう考えているか。（3）全体で、夏休み短縮が進んでいると考える。給食の提供ができないか。

大問い2. 給食センター運営及び給食について。（1）給食配送時の事故が多くなっている。勤務実態で問題はないか。年度別に発生回数、事故内容はどうか。今後の対策をどうするか。（2）給食の提供は、現在何食提供し、提供可能限度数は何食か。直近5年分の提供給食数も問う。（3）給食共同調理場管理運営に関する規則第3条、学校給食は、週5日制とし、年間を通じて200食を基準に授業日の昼食時に実施する。とあるが、現状と合っているか。（4）栄養素の確保はできているか。カロリーだけの確保となっていないか。（5）各学校で、給食の過不足や異物混入がふえていると聞くが状況はどうなっているか。（6）人員不足や配送時の負担などにより生じているヒューマンエラーではないか。

大問い3. 陸上競技場での事故について。（1）昨年末に陸上競技場内で、高齢者が競技場内の階段、フィールドから事務所側に降りる際に転倒し、大けがをされたと聞いていますが、把握しているでしょうか。（2）借用した団体等から、事故等があった際の報告義務や対応マニュアルなどはあるか。（3）高齢者の利用も多いため、昇降しやすいように手すりの設置ができないかとの要望があるが設置は可能か。

大問い4. 児童生徒の虫歯予防対策を。（1）子ども医療費の中で、歯科医療費の伸びが大きいと聞いている。幼少期、小学校低学年までは学校での歯磨きなどがされていると聞くが、小学校中学年から中学生は、歯磨きする時間がない。予防すれば虫歯にならず、歯科医院からず済む。全町を挙げて虫歯ゼロの取り組みができないか。（2）幼少期、学童期の子供たちに、フッ素塗布することができないか。（3）現在、行っている学童期の生活習慣病予防健診は、生活習慣病が子供のころからの生活習慣によって左右される。健診を受診することで体の様子や生活習慣の振り返りのポイントについて知ることができる。子供たちの健康的な成長を支えるために生活習慣病予防健診を行っていると考え。歯科についても

予防や意識の持ち方で大きく変わる。乳児期から学童期、大人に対しても継続しての予防を促す取り組みができないか。以上、4点お願いします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 それではまず、質問事項の1点目、夏休み短縮についての(1)についてお答えいたします。今年度は夏休みを短縮し、南風原中学校が8月28日から、南星中学校で8月26日から2学期を開始する予定でございます。

続きまして、(2)でございます。卒業式等の関係から中学3年生など、授業時数の確保は毎年苦慮している状況でございましたが、弾力的に学期の期間変更が行えるようになり、有効であると考えております。

続きまして、(3)でございます。現在の給食費は給食共同調理場管理運営に関する規則第3条に定める200食を想定した内容。そして原材料費で計画された経費で賄っており、200食を超えない範囲での給食提供数であれば可能でございます。

続きまして、質問事項の2番目、給食センターの運営及び給食についての(1)でございます。これは赤嶺議員の手元にある答弁書、年度に変更がございますので、変更してお答えしたいと思います。年度別に発生回数、内容としては平成28年度、29年度、そして31年度において接触事故が1件発生しております。そして勤務実態に問題はなく、今後の対策として安全対策(補助者の誘導)の徹底やOJT、また注意喚起を行うとともに配送車の安全講習会を開催する予定でございます。

続きまして、(2)でございます。給食提供食数は現在5,472食で、共同調理場の設計時の提供可能限度数は6,000食を想定しております。直近5年分の提供給食数では、平成27年度4,899食、平成28年度5,123食、平成29年度5,218食、平成30年度5,398食となっております。

続きまして、(3)でございます。平成30年度実績では、給食提供回数は小学校199回、中学校202回となっております。

(4)です。学校給食は、学校給食食事摂取基準に沿った栄養、カロリーとなるよう献立がなされております。

続きまして、(5)です。各学校で給食の過不足や異物混入がふえているという事実はございません。昨年、配膳の課程での計算ミスによる給食の過不足があり、学校への謝罪とあわせて作業手順の再確認と再発防止の徹底を促しました。異物購入に関しましては、魚そうめん汁に使用したモズクの中に貝殻片が混入していた等の報告があり、加工業者への選別仕分けを徹底していただくよう指導を行いました。

続きまして、(6)です。異物混入は人員不足等によるヒューマンエラーではなく、ほとんどが仕入れ食材に混入した異物でございました。

続きまして、質問事項の3点目、陸上競技場の事故について。まず(1)です。大会主催者に確認したところ、施設の不備によるものではなく、報告の必要がないと判断し、報告はしていないとのことでございます。

続きまして、(2)です。現在、明文化されたマニュアルはございませんが、利用者に熱中症の症状があった場合には体を冷やす作業、事故等では、事故者の対応や救急車の誘導を行うなど、一定の作業を行うよう黄金森陸上競技場管理人と共通確認を行っております。また利用者に対し、事故等の報告義務を求めることは、現在のところは行っておりません。

(3)です。陸上競技場という特性や機能性の問題もございますので、さまざまな角度から検証をしていきたいと考えています。

続きまして、質問事項の4番目、児童生徒の虫歯予防対策でございます。まず(1)ですが、本町の小学校では昼食後の歯磨きや1年生の親子を対象としたブラッシング指導、また虫歯がない児童に対して虫歯ゼロの表彰を行っております。中学校でも給食後の歯磨きを勧めたり、保護者に対して保健だよりを用いて歯磨きについての呼びかけ等を行っております。

(2)についてです。フッ素塗布に関しましては、その効果やメリットを認める意見と、フッ素による中毒症状を懸念する意見などから賛否が分かれている状況にあり、本町ではフッ素塗布ではなく、歯磨きを通した歯科予防を進めていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 では、最後の質問(3)についてお答えします。口腔の健康は、食事や会話以外に生活習慣病にも影響してくることから、大人に対しても国や県が展開する8020運動の普及啓発に取り組んでまいります。以上です。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 答弁ありがとうございます。それでは1問目から一問一答で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

昨年は、南風原中学校のほうで夏休み短縮が先に行われて、ことしから南星中学校もということですが、小学校でもそのような動向があるのかどうか、確認したいと思っております。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えします。小学校のほうでは夏休み短縮ということはありません。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 小学校ではないということですが、実際にはサマースクールということで、夏休みに入った後に、全員ではないんですけども、学校に来て授業を受けるという流れになっています。中学校でも実際、前半に中体連の県大会等もありますので、その後とかに調整して、夏休み中に授業を行うということが実際にありますので、全体的な流れとして夏休み中の授業もふえていると私は考えています。その中でも、始業式を8月後半に持ってくるということは、トータルで考えれば、前半に小学校もやるより、後半に始めるのを早くすると統一していけば、全体的な流れとして給食の提供も可能というか、やらなければならないことになっていくのではないかと考えますけれども、実際、短縮されている伊江村のほうでは1週間も短縮して授業を始めているということで、給食を提供して

いるという情報をいただいております。そういったことから、今後ですね、200食ということで区切られていますけれども、今後の前提として授業日数が確保できない状況といたしますか、授業日数を確保するために学校への登校日をふやしていく可能性はあると思うんです。その中からいえば、給食提供の数を200食という限定ではなくて、その分、負担をしていただかないといけないかもしれませんが、今後、対応していかないといけないと考えますけれども、教育委員会としてはどう考えていますでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ご提案のとおり、授業日数の確保のために登校日数をふやす必要があるということであれば、その辺のご負担は出ると思っておりますけれども、検討は進めるべきものだと考えています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、宜野湾ですとか、そういったところでも200食前提でやっているんですが、ことしから情報としては、前に南城市と伊江島のほうが先に前倒しして、短縮の方向で動いていると。南風原町も短縮。それ以外にもうるま市とかでも短縮が始まっていると聞いています。特にことしはゴールデンウィークのときに10連休がありましたし、授業日数を確保するという前提ではかなり厳しいということで、今後動きが出てくる部分もあるのかと思います。学校の指導要綱の中でも、来年度も変わりますし、そういった中からも小学校での英語が授業に入ってきたりとか、いろんなところで、これまで言われてきたゆとり教育がギスギスの教育になっているんじゃないかなと思うぐらいに子供たちは頑張っているんですけれども、その中でも登校して給食がなく、午前中で返して親がまた負担するというよりも、ちゃんと短縮とかそういうふうに今後動いていくのであれば、そういうことも前提として話し合いを進めていかないといけない。去年から始まっているわけですから、実際話し合いをしていなければならないと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 教育委員会としても、その辺については校長、教頭会の中で話題に上げております。ただしかし、学校のほうとしても、学校における夏休みの意味づけであるとか、その辺も含めて、この辺についてはしっかり検討していきたいというご回答がありました。引き続き、その辺についてはこちらのほうも含めて検討してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、夏休みは短縮されて8月から始まる。中にはサマースクールという形で7月の夏休み入ってすぐから子供たちが登校しているという状況もありますし、保護者の負担からすれば同じ登校をするのであれば、午後まで授業をして給食を食べてきてほしいと、私からすれば、私が保護者の立場であればそういうふうを感じるものですから、実際8月後半から学校が始まった際には、学校は午前中で終わったとしても、子供たちは大体部活で残ったりとか、そういうふうになってくると思うん

ですね。そうすると弁当だったり、いろんな負担が出てくると思いますので、そういうところでも是非検討していただきたいと思います。実際、規則が改正された際には給食の話は出なかったということでもよろしいでしょうか。去年、規則を改正して夏休みを短縮できると。学校始業が8月中にあるというときには、給食の話までは、その時点ではなかったということでもよろしいですか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 その時点で、給食の検討というか、いつも大体198日程度の授業、提供数におさまっていただけだったので、そこまで注意が至らなかったと。実際、いろいろ台風も含めたり、行事の参加とか給食の提供があるんですけども、計算してみると、202日、2日オーバーしていたということが途中で、計画の段階で気がついたということで、慌てて提供の計画を練り直したという状況でございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん わかりました。スタートして初めてわかった部分が多かったと解釈しますので、是非、早目の対応を、今後どうしていくかということも含め検討していただきたいと思います。関連するので、1番を終わらしまして、2番のほうに行きたいと思いません。

実際、給食が提供されている数がどんどんふえてきていると、年々ふえてきていて、昨年とことし、それ以前からすると200食ずつとか、一気に500食ふえたのは多分幼稚園の給食等もあると思うんですけども、そういった中で職員が実際に増になった部分があるのか。ずっと同じ人数でやってきたのか、これまでの人員配置についてはどうなっていますでしょうか。

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時19分）

再開（午後1時19分）

○議長 知念富信君 再開します。教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 職員の数はふえておりません。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 100食ふえるたびにどれぐらい調理するのかというものを考えていった中で500食ふえるというのは1割ぐらいふえている中で、人員がふえないでその中で配送もしてというのは、負担が大きくなったのかなというのも懸念があったものですから、私の中で。それでこの質問を取り上げています。実際、4年間の間に3回は事故があって、同じ小学校内で2件あったということもありますし、今実際にマンパワーとして足りていないのかなという不安もあったものですから確認をしました。今後6,000食可能ということですけども、実際に、今の人員で6,000食が可能なのか、施設として6,000食が可能だと考えられているのか、確認したいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 今回、こちらのほうで出している 6,000 という数字は、施設を計画、建築したときの設計食数です。現在提供している、人間もそうなんですけれども、この部分については提供数とか回数がふえることにあわせてシフトの変更だとか、人員の配置等については見直さないといけないだろうと考えております。また、給食については、以前から同じような規則とかルールでつくられたものではありません。どんどん食に対する安全衛生の部分についてもいろんな改正とかが含まれておりますので、やはりそういったことをしっかりチェックして、またその辺の施設の計画も練り直していかないとけないのかなというふうに考えております。

○議長 知念富信君 12 番 赤嶺奈津江議員。

○12 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、私もあすが新川のクワッチー会で 100 食準備するんですけれども、1 人でやるのか 2 人でやるのか、5 名でやるのか、作業時間も違うので集合時間まで変わると。そういうことで勤務実態に支障が、何か問題があるのかということで質問させていただきました。実際準備するまでの時間と、配送する準備が整うまでというのは決まっているわけですよ。だからその間に全部こなさなければならぬというストレスと、その後の配送業務という中では、また晴れているときに車が少ない中を配送するのと、雨降りの中配送するのと、いろんな負担のあり方、違うかと思うので、運転がメインの運転手としての仕事ではないと私は思っているの、そういった専門性のところでの課題もあるのかなと考えますがいかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ご指摘のように、もともと調理員としての業務ですので、先日も恥ずかしながら、こちらのほうで接触事故がございましたが、その辺については、大きい車をなれない形で運転したためにそういう事故もあったのかなという反省があります。その辺については、やはりそういうふうな調理員としての採用ではあるんですけれども、新しく配送という業務を担うこともありますから、先ほど答弁でもありましたように安全講習会と、それから車がどういうふうに動いているのかという部分の検証も含めて、勉強会を重ねてその辺の対応ができるようにしていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12 番 赤嶺奈津江議員。

○12 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、検証を今後行っていくということなんですけれども、机上での研修なのか、実技を伴う研修なのか、どういうふうに考えていますでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 まず、最初は全体のミーティングでそういうふうなことが起ると。通常、自分が乗っている車が配送車に近いような車を持っている方であると。車の内輪差であるとか、車の動きもよくわかるだろうということなんですけれども、その辺は実際乗ってみたいとわからないだろうということもありまして、夏休みの期間にそういった講習もやっというふうなことの計画でございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 実際運転してみないとわからない、やっぱり大型の車になってくると内輪差であったり、バックするときの注意とか、そういったところでの確認といいますか、なれといいますか、そういったところを確認してやっていかないと大きい事故。たまたま今回、これまでも車だったからよかったというわけではないんですけれども、これがまた人であったり、人身につながるようなことがあっては困りますので、適宜ちゃんと講習を行うなりやっていただきたいと思います。もし今後、配送の部分がこれからふえるといいますか、3歳児を幼稚園で見るということが、今後あるかどうかわかりませんが、人員がふえた際には、配送事業もふえてくると思いますが、この配送事業については一部企業が、配送業者がトラックを持っているということで、配送のみの請負もされていると聞いていますけれども、そういったことも考えられますか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 現在、先ほど人数がふえた場合の給食センターのあり方が質問にありましたけれども、南風原町役場のほうで実施計画とか、いろんな計画を策定しています。それに先駆けて給食センターのほうでも今後の給食調理場のあり方について、計画等を検討して、その辺の想定を行いながら、今後の計画をやっていきたいと。今現在のところ、その辺の計画の話し合いが至っていませんので、これから実施していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 今、子供たちの人数もどんどんふえてきて、毎年100食以上が提供数ふえてきていますので、是非早目の対応をお願いしたいというふうに思います。また、2の(3)ですが、実際200食を基準を超えない範囲でということだったのが、去年は202食、中学校のほうで提供ということでもありますけれども、実際それだけ登校日数がふえていると、ことは確認したらまだ200日までいかないということでもありますけれども、今後こういった形で授業日数がふえる際に、学校側との調整、去年やったときにはそれがちゃんとうまくいってなくて202食になったということですが、そういう中で学校側との調整というのは年度初めまでにはやらないと、学校行事というのは3月中にはほぼ決まっていますので、確認をやっていかないといけないと思いますが、前倒ししてそういう話し合いがされているかどうか確認したいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 通常ですと、学校の行事の素案等については、2月中に一旦計画をつくります。それに各小中学校からのチェック等や修正を加えながら、3月中には校長、教頭会のほうで一旦学校の計画をやっていきます。それを給食センターのほうにも連絡を入れるような形で給食の提供数等についてはチェックを行っておりましたが、その計画の中でイレギュラー的にイベントの中で給食があったりなかったりという回数があったり、それから別の予定で給食が出たりということがあったりしない限りは、基本的には最初の計

画どおりということですので、3月の時点では給食センターの計画に盛り込むことができるということで考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。3月中には確定がほぼできるということですので、是非授業日数との兼ね合いとか、そういったことも含めて給食提供日数のあり方も含め、早目に確認をして、学校側との調整をして、私からすれば提供していただけるように。登校日には提供するという前提で動けるようお願いしたいと思います。

(4)のほうに行きますけれども、以前より、学校給食が寂しくなっているんじゃないかということで写真を撮ってもらったのがあったんですが、ほかのところと比べると1品少ないとか、同じカロリーをとるにしてもいろんな味を味わって味覚を鍛えるといいますか、育てるといふ部分もありますので、そういったところからすれば、いろんな食事から栄養素をとれるとお願いしたいと思います。いろんなイベント、絵本とか、そういったものにちなんだ給食だったり、イベントごとにちなんだ給食ということでいろんなアイデアを出して、栄養士のほうも頑張っているということを知っていますけれども、子供たちが見た目にもおいしい。味わっておいしいという形で食べられるような給食の提供をお願いしたいと思います。実際、中学生の子供たちから食べると足りない、部活までするととても少ないということもあると聞いていますし、是非そういったところでカロリーの確保だけではなく、栄養素、また1品増も含め、今後の課題として早目の検討をお願いしたいと思います。

(5)に行きますけれども、給食の過不足や異物混入が事実ではないということですが、実際、配膳の計算ミスで過不足が発生したわけですね。そういったことというのも、私からすれば皆でチェックすればミスがない、ヒューマンエラーだったんじゃないかということで質問しております。同じ学校内での過不足であれば調整できると思うんですけれども、ほかの学校に行ってしまったらすると、その調整がやりにくいということもありますので、そういうミスがないようにしていただきたいと思いますが、この手順についてはどのように確認をされていますでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 全体的な話で行いますと、給食の調理の工程、それから人数の配置というのは、その食材と給食をどういうメニューをつくるかということによって給食センターのほうではやっているわけですが、今回、この配膳のミスという部分については、冷凍用のトレーを、その袋から出して蒸す準備をしたり焼く準備をする人と、開けて数える人が、同じ人間がやっていたんですが、そこでどういうわけか途中数字を勘違いしてしまって、少ない学校が出てしまったと。1パレット16個入っているものが1個抜けてしまうと、そのまま全部抜けてしまうという形になるので、5つ数えていたつもりが、本当は4つだったという形で抜けてしまったということで。その部分については1人でやるのではなくて、1人は開封する者、1人は数える者という人数のやり方で、その作業工程の手順を改めるなど、その辺については別の間違いがないようにということで、全体的な見直しをさ

せていただきました。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。たまたまこの足りない日に、私はPTAの作業があつて学校にいて、給食が足りないというお話があつて、私がいるときに…と思つたんですが、実際そういうことを目にしたもので、過不足がないようにしなければいけないですし、これがまた個数が多かつたんですね、パレットごとということであれば、そういうことがあれば子供たち食べられるまでに時間がかかつてしまつたり、運んだりということで手間もかかります。是非、前段の中でのチェック機能をしっかりとやっていただきたいとお願ひして、この質問は以上にしたいと思ひます。

3問目ですけれども、陸上競技場での事故の際に、私が聞いたときには高齢者の方が4カ月入院されていたと。リハビリも入院も含めてですが、12月の頭にけがをされて、退院されたのが3月後半、もう4月に入るかというぐらいに退院をされたと聞いています。この事故がトイレに行きたいということで、そのままフィールド側からおりていく際に、つえもついておられたそうですけれども、そのまま足を滑らせて大腿骨を骨折、ほかのところも折つたようですが、そういったことがあつたそうです。なので、私的には、これは高齢者も、町民のための施設ということでもありますので、そういったことも考えればパラリンピックとか障害者の大会等もありますし、そういったところからすれば一部でも昇降しやすいような手すりを設置、常にあると支障を来すのであれば、取り外し可能な、よく駐車場の進入禁止、途中から時間外に人が入らないようにということで設置型の手すり等もありますけれども、そういった形での設置も可能ではないかということで質問しております。実際、今回事故に遭つたときに、大会主催者側からは町へ報告がなかつたということでもありますけれども、今もマニュアル化といいますか、こういった大会主催者への義務化はされていないということであるんですが、やはり町の施設ですので、報告義務は課したほうがいいのかと思ひますがけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 教育長の回答の中では、その義務を課していないという回答をさせていただいたんですけれども、一応、この質問を受けて、早速こちらのほうの、団体使用の許可書のほうには事故とか、そういうけががあつた場合には連絡をしてくださいと。そういうことを追記させていただいています。義務という形というよりも、こちらのほうとしてはご協力をお願いしますという形で、そういうことは記載させていただいています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはり、同じような事故が起こらないようにというところでの注意喚起も含め、報告があると、ちょっとしたこういったところでこういう事故がありますというような喚起もできますから、そういったところも含めて、やはり情報収集としては義務化したほうがいいのかと私は思ひますので、協力という形ではなくて、借りる際にはそういったことがあれば必ず報告していただきたいほ

うがいいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 その辺については、必ずというか、義務という言葉の表現のところで、我々は二の足を踏んでいるだけですが、当然、借りる方々の、本来主催者側の義務として、その辺はちゃんと報告するということはしっかりしてもらわなければならないということでは考えております。それでその大会を主催する側にはそれをやってくださいということでは義務づけというか、しっかりとした報告ができるように整備してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。是非、事故の傾向とか、そういったものも収集していけば借りられる方、大会を主催される方への注意喚起にもなると思いますので、是非それは町が頑張ってやっていただきたいと思います。また、この手すりの設置の件ですが、やはり高齢の方、つえをついていなくても長時間立っていたり、競技の後で階段をおりるのがきついということで手すりは必要でしょうということで要望があったものから、提案させていただいていますが、競技場ということでなかなか難しい部分もあると思いますが、先ほど言ったように、取り外し可能なポールのような形でもいいですので、大会に応じて設置でもいいと思うんですね。高齢者の方が借りる際には、主催者側が設置して片づけるまでやってもらうと。そういった形でやれば高齢者の使用についても安全にできるのかなと思います。いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 この件については、答弁にもありましたように、ご提案のような、陸上競技場という特殊な施設、また機能性の部分とかもいろいろありますので、この施設の管理者とも協議して、どういうふうな形が使いやすいのかとか、使う方に優しいのかというのをさまざまな角度から検証していきながら、その手すりの部分についても考えていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。町の陸上競技場、町民のための施設ですので、専門性だけではなくて、町民の方が安心、安全に使えるという観点からも是非整備をしていただきたいと要望したいと思います。それでは次、大問4に行きたいと思っております。

本町の歯磨きということで、虫歯対策、これは今回多くの同僚議員が取り上げていますが、実際幼少期、子供医療の中で歯科の医療が伸びているということの懸念、また歯は1回治しても意識が変わらない限りはずっと治療にかかっていくようなものなんです。予防でかなり防げる医療費と考えています。その中で、せつかく小学1年生とか、低学年までは歯ブラシを積極的にやっているのに、高学年になっていくとなかなかそこまでいかない。中学校については、ほとんどやっていないと、私が確認したときには聞きました。実際、そういう時間さえもないと、時間がいっぱいいっぱい余裕がないという子供たちからの声もありました。そういう中でも先ほど言ったように授業日数の確保の仕方、1日の授業日数の確保

の仕方というところからも、是非、健康の面からも余裕を持った授業日数確保を町としてもやってほしいと思うんですが、実際、今、給食後の歯磨きを勧めたりということでもあります。お手元にお配りした資料の中に虫歯以外の疾患ということで、第3の歯の疾患、酸蝕歯（さんしょくし）というものがあります。これは炭酸、柑橘類が原因ということで、酸性の食品とか飲み物とかをとった後に口の中をそのままにしておくと歯が溶けると。口腔崩壊につながりやすい疾患になっています。実際、酢の物を食べてそのままにしていると歯が溶けるという形になるものですから、子供たち給食でもあえ物とか出ますよね。そういったところからもうがいなり、歯磨きなりを進めていかないと、歯のエナメル質が溶けて象牙質がむき出しになり歯がだめになっていくと。実際、小学生だとまだまだエナメル質は柔らかいので、すぐに歯がだめになってしまうんですね。そういったことから幼少期、せっかく町も検診に力を入れてやってきたのに、小学校、義務教育が始まるとそれがおろそかになるというのがあってはならないと思いますけれども、どうでしょうか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 昨今、教育現場に求められているのが非常に多いと、まずお話し申し上げます。本町は学校での歯磨きの奨励とか、授業等を通して歯の大切さの指導はしております。そして医療費助成という、一番抜本的なといいますか、その支援も行っているという認識をしております。そこで私が申し上げたいのは、やはり教育現場でできるのは限りがあるわけです。是非これは、町からも、学校側からも、さまざまな情報を提供しますので、保護者、基本的には保護者もしっかりとこの情報を受けて理解してもらって、対応していただく。本当に学校現場では箸の上げおろし、器の持ち方、挨拶、やはりこれはしっかりと家庭でもやっていただきたいと。学校がしなければならないこと。学校でも家庭でもできること、これは地域にお願いすることということもございますので、この辺はしっかりと我々が一緒に取り組んでは行きますが、家庭でも是非、またしっかりと取り組んでいただくということで、親の学び合いプログラム等もございますので、そこも含めて、ともに取り組んでいきたいと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。学校側に求めるといいますか、給食の後の歯磨きをやる時間を設けてほしいと、私からすれば。なぜかという、朝ご飯を食べて、歯磨きをして、学校へ行って、給食を食べて、その後、5時、6時に帰ってくるまでに約10時間ぐらい歯磨きをしない状況が続くわけです。食べたものをそのままという形になりますので、そうするよりも間に、給食を食べた後には磨く時間を設けると。そういうふうにやっていただければ、口の中の改善はかなりよくなるのかなと。これは親が意識しても、学校でその時間さえもなければ歯磨きができないわけですよね。そういったところでもうがいなり、フッ化物洗口なり、防げるものは防ぐということで、その時間を提供してほしいと思っております。医療費がかかるということで、かなり予算にも多く負担がかかってきているのはわかっています。その中である校長先生に、医療費助成の話から虫歯の話になったんですが、

それを防ぐことで、医療費助成が少なくなっていく可能性がある。予防できるものであると。学校側も一緒に協力していけばかなり大きな成果が上げられるんじゃないかという話をしたら、これを学校が協力することでどういうふうに流れていくかということ、想像したことがなかったという話だったんです。こういうことをすれば、こういうことにつながるということ、ちゃんとしっかり教育部局、民生、総務と話し合いをして、対策をとっていくという話し合いをすれば、先生方にも協力いただけるのかなと思いますので、そういう話し合いをしていただきたいと思います。その中で、親の協力ということもありましたけれども、実際、低所得者が多い沖縄においては、保護者も歯の状況が悪く、子供たちの口腔崩壊が多いと、きのう善之議員からもありましたけれども、実際、民生部のほうでも口腔崩壊の児童の把握はされていると思いますけれども、町内の、今把握されている子供たちの中で口腔崩壊がある子供たちは何名ぐらいいますか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 儀間博嗣君 お答えいたします。学校も含めた各関係機関から、いわゆる気になる子、家庭生活状況も含めた気になる子の情報が届いておりますが、その中に虫歯がひどい子供たちがいるという報告があつて、実際それを目の当たりにしている事実がございます。手元に今、何名という数字はございませんが、そういった子供たちを我々民生部のほうで、こども課のほうで支援の対象児として対応しております。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えします。平成31年度で、今手元にある資料でわかっている数値ですね、小学校1校確認とれておりませんが、3校の合計が19名、中学校の合計が9名となっております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。気になる子ということで民生部のほうでも届いてきて、教育部局でも確認がとれていると。歯科検診があるのでその分が把握されていると思いますが、やはりこれまでは県全体でいけば手元にお金がないから歯科に行くまでは、痛いのを我慢すればどうにかなるぐらいまでのもので、なかなか歯科医療にかからなかったということですが、町内では歯科医療受診率がかなり上がっているというふうに聞いています。実際、私が歯医者に行った際にも子供だけで受診に来ている子もいました。そういったことからすれば、窓口が現物支給で助かっている子がふえているのかなというふうに感じています。小学校で19名、中学校で9名ということですが、そこまで行かないまでも虫歯を持っている子が町内で35%台前後で推移しているということで、是非歯に対する教育を今からやれば、今育てている子供たちがいつか大人になって、子育てをしていくわけですから、今大人を教育することも大事ですが、保護者にお願いするのも大事ですが、この子供たちの教育をすることでどういうふうに体に影響があるのか、そういったことも含めて教育することで、この子供たちが子育てをしていくときに医療費の抑制だったり体への影響、実際、低年齢化してきていて子供のうちから歯周病になるとい

うことで、かなり懸念されているんですけれども、先ほど言いました酸蝕歯ということで、溶ける歯ですが、そういったことから歯茎への影響も大きくて、それも歯周病とかになると。その中から沖縄県でかなり多い、妊娠性歯肉炎からの早産も実際関連があるんじゃないかと言われてます。沖縄県自体が早産の率が高いので、そういった酸性の口の状態の中からの歯周病発症から早産につながったり、脳梗塞、または関節炎、胃炎まで、かなり沖縄県の中で発症が多いと思われるものは結構多いんですね、糖尿病だったりとかも。そういったものも関連してくるということですので、将来の医療費抑制という観点からも継続した歯の治療…、歯の治療と申しますか、実際6月4日から10日まで虫歯予防ということでありましたけれども、私もこの週間の間に行きました。やはり定期的に行くことで歯の健康を保つ。子供たちへ意識を持たせるという意味からも幼少期、今頑張っているというふうに民生部のほうでも聞いていますけれども、継続して行くためにはやはり教育部局からの協力も必要だと思いますので、再度、答弁いただきたいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 新しいアイデアの食後の歯磨きを勧めたりという部分については、教育部と民生部のほうもこれからまた話し合っ、いろいろ検討をさせていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。歯の中の衛生問題ということですから、給食を食べた後、また中学生になるとスポーツドリンク等も歯を溶かす原因になると言われていますので、うがいとかを奨励することも大事かと思えますし、是非健康につながるものとして、ただせつかく小学5年生、中学2年生は検診していますから、歯についても継続した、生活習慣病にならないために教育部局からも民生部からも是非後押しをしてもらって、子供たちが健やかに育ち、大人になった後、次の世代に健康がつながるように。財政に負担が引き継がれないように協力していってほしいと要望して終わりたいと思います。ありがとうございました。